

令和7年度 1年次「史学導入演習Ⅱ」事前登録

1年次後期開講の「史学導入演習Ⅱ」（必修科目）は、少人数で行われる授業です。その履修は、希望優先方式による事前登録制をとっています。今回は以下の登録期間・方法によって希望を受け付けます。今後の参考にしますので、その授業を選択する理由、現在関心を持っている研究テーマについて、それぞれ400字以内で具体的に記入して下さい。

「史学導入演習Ⅱ」事前登録の概要

○登録期間：7月5日（土）14時30分～7月12日（土）23時59分（厳守）

○登録方法：Microsoft Forms

○登録内容：①第1希望1つ、第2希望3つ選択

②第1希望の選択理由（全体で400字以内）

③現在関心を持っている研究テーマ（400字以内）

○結果発表：9月初旬（予定）



＜史学導入演習Ⅱ登録フォーム＞

<https://forms.office.com/r/BMiUtGfJs9>

【注意事項】

史学科で開講される必修科目「史学導入演習Ⅱ」（1年後期）・「史学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」（2年前後期）は、歴史学における研究方法や史資料の扱い方の基礎を広く学ぶために開かれています。これらの履修をとおして、今後のコース選択、3・4年次のゼミの選択、研究テーマ選びの参考にしてください。

同一コース・分野・時代の授業を履修することもできます。しかし、3・4年次のゼミは、成績（GPA）や研究内容によって希望するゼミに入れない場合もあります。また、コース・分野によっては、この機会に他の演習・講義の履修をおすすめしていることもあります。このガイダンス資料だけでなく、ガイダンス時の教員からの説明をよく聞いたうえで、希望を提出してください。

登録期限内に履修希望を提出しなかった場合は、後期の履修登録期間に二次登録期間を設けますが、希望に添えないことがありますので十分注意してください。

史学導入演習Ⅱの登録方法

- ① K-SMAPYⅡ経由で配信されたURLにアクセスするか、QRコードをスキャンする

史学導入演習Ⅱ登録フォーム



<https://forms.office.com/r/BMiUtGfJs9>

- ② 大学より付与されているメールアドレス・パスワードを入力しアクセスする

※既にログイン状態の場合、この画面は表示されません

メールアドレス：学科記号（史学科：b）＋ 学籍番号 6 桁@kokugakuin.ac.jp

パスワード：K-SMAPYⅡログイン時パスワードと同じ

- ③ 下記の画面より必要事項を入力する

1. 学籍番号を入力してください。（半角数字 6 桁） *

（例）B240123の場合、240123

値は数値にする必要があります

「B」は不要

2. 氏名を入力してください。 *

回答を入力してください

3. ふりがなを入力してください。 *

回答を入力してください

④ 下記選択肢より第1希望を1つ・第2希望を3つ選択する

4. 「史学導入演習Ⅱ」の第1希望を選択してください。*

- ☐ 日本史・古代史 山崎雅穂
- ☐ 日本史・中世史 水野嶺
- ☐ 日本史・中世史 比企貴之
- ☐ 日本史・近世史 野本禎司
- ☐ 日本史・近現代史 種福秀司
- ☐ 日本史・近現代史 高橋亮一
- ☐ 外国史学・西洋史 神長英輔
- ☐ 外国史学・東洋史 速水大
- ☐ 考古学 阿部常樹
- ☐ 考古学 仲田大人
- ☐ 地域文化と景観 三河雅弘
- ☐ 地域文化と景観 畠山聡

⑤ 第1希望の選択理由、現在関心を持っている研究テーマを400字程度で記入

6. 第1希望の選択理由を簡潔に記入してください。(400字以内)*

回答を入力してください

7. 現在関心を持っている研究テーマについて記入してください。(400字以内)*

参考文献などを適宜提示してください。

回答を入力してください

⑥ 「自分の回答についての確認メールを受け取る」にチェックを入れ、「送信」を押して完了

☐ 自分の回答についての確認メールを受け取る

送信

※登録時の注意事項※

- ・必ずご自身のアカウントでログインのうえ回答してください
- ・期間中は何度でも回答できます(最新の回答を適用します)
- ・自身の回答内容をスクリーンショット等で手元に控えておいてください
- ・同じ教員を複数回希望しないでください

システムの都合上、第1希望・第2希望で同じ教員を選択できますが、必ず異なる教員を選択してください(同一教員が含まれていると希望に添えません)

令和7年度 史学導入演習Ⅱ シラバス

時代／分野		担当 教員	授業テーマ (シラバスより)	授業内容 (シラバスより)
日 本 史	古代史	山 崎 雅 稔	日本古代史の研究と 史資料	この演習では、日本古代史に関する基礎知識や研究の方法を学びます。また、同時代の史料にふれて、史料の読み方、語句の意味の調べ方、解釈のしかたを学んでいきます。 具体的には「平安時代の文化と社会」をテーマにして、9～11世紀の研究・史料を取りあげます。この時期には、律令制を基本としたそれまでの国家システムは変貌を遂げ、新たな政治文化が形成されます。また、地域社会における人間の活動様式も大きく変わっていきます。こうした古代社会の変容について、最近の研究と文献資料にアプローチしながら考えていきます。 共通のテキストには、木村茂光著『（読みなおす日本史）「国風文化」の時代』（吉川弘文館、2024年）を用います。事前に読んでおくことをおすすめします。
	中世史	比 企 貴 之	中世前期の神社・神祇信 仰関連史料を読む	対面授業として実施する。この演習では院政期から南北朝期に至る、いわゆる中世前期を主たる対象とする。取り上げる史料は、中世前期の寺院や神社の動向や当時の信仰の有りようを直接に示すような史料を用いたい。演習を通じては①史料を読む力、②辞書・辞典を活用した調べ方、③参考文献の探し方、④口頭発表と報告レジュメの作り方の修得が第一義だが、中世前期の寺院や神社の動向にかかわる史料の読解を通じて、そこからかえって当時の政治や社会について考える“宗教社会史”的な関心から中世という時代を考える機会として欲しい。 演習のスタイルを採るので、授業は報告とその報告に対する討論によって進行する。報告担当者以外の学生も、必ず史料の読み方・語句の意味などを調べたうえで授業にのぞむこと。
		水 野 嶺	日本中世の史料を読む	本演習は太田牛一『信長記』（『信長公記』）を基礎史料に、関係する古文書・古記録を含めて、戦国・織豊期の史料読解を行う。史料講読を通じて、日本中世史を考えるための基礎的知識や史料読解の基礎を身につけることを目的とする。 授業は、出席者各自が訓読・語句の意味・逐語訳など予習をし、輪読時に発表してもらう形式となる。発表に対する質疑応答もおこなうので、必ず予習をしたうえで、授業に臨むこと。
	近世史	野 本 禎 司	日本近世史研究入門	日本近世史を学ぶための入門的な演習である。授業の前半は、日本近世史を学ぶために必要な時代区分などの基礎知識、史料の読み方や研究史などの研究方法について学び、後半は、それらをもとに各自選択したテーマについての発表と討論をおこなう。
	近現代史	種 稲 秀 司	日本近現代史入門	日本近現代史を学ぶ入門のための演習を行ないます。近現代史の特徴は史料が豊富なことですが、そこには研究に使うべきものと、そうでないもの。公文書や書簡などの私文書、さらに新聞、雑誌、著書と様々な種類があります。今後、学習を進めて行くにあたって、史資料の特徴を知った上で、まずは読みやすい活字化された史料を読んでいきます。

令和7年度 史学導入演習Ⅱ シラバス

時代／分野		担当 教員	授業テーマ (シラバスより)	授業内容 (シラバスより)
日 本 史	近現代史	高橋 亮一	日本近現代史入門	本授業は、日本近現代史を学ぶための第一歩となる演習授業（対面形式）です。日本近現代史は、ぼう大な数の史料と向き合うことはもちろん、ほかの国の歴史や経済、法律なども知ったうえで研究することも求められています。半期の授業を通して、日本近現代史の史料に向き合うための基礎的なスキル（文献の調べ方、史料の読み方）とともに、これから先の研究活動に取り組むときの姿勢を身に付けてもらいたい。 演習では、受講者人数にもよるが、2回の報告を予定している。読む文献や史料については第1回の授業で詳しく説明するが、受講者の関心にできる限り沿えるよう、いくつかの候補を提示する。 【1回目】文献講読：研究の状況や論点整理・内容に関する討議 【2回目】史料講読：活字化された史料の音読・内容紹介・考察および討議
				授業ではテキスト講読と参加者の研究報告を並行して進める。 参加者はテキストを用いて自らの関心に応じて西洋近現代史の主要な論点を理解し、史料研究の方法、関係する理論、近年の研究動向などを学ぶ。その上で、西洋近現代史のさまざまな論点の中から自らが関心を持つ地域と時期を探し、卒業論文の構想を練る。 研究報告では自分で選んだ学術論文を手がかりにして自分で問いを立て、自分で入手した史料を読み解いてその問いに答えを出す。複数回の研究報告の機会を使って各自の研究を段階的に進める。 授業の主題は19世紀半ば以降の西洋史全般とグローバルヒストリーだが、ロシアを含む中東欧や、東北アジアと欧米の関係史に関心のある学生の報告については対象の時代を問わない。 西洋近現代史を主題とした指定様式での研究報告、報告前のペーパー提出、毎回の授業での発言を義務とする。
				歴史学を学ぶ上で史料の読解と先行研究の理解は重要な柱であろう。史料について言えば、中国史・朝鮮史や日本古代史の場合、漢文で書かれたものが主な対象となる。そこで本演習では、漢文資料を読み解く力を養うために『旧唐書』倭国伝・日本伝を講読する。漢文史料の読み方の基本を習得するため、各種の翻訳本を参照しながら読み進めることにする。 また、参加者それぞれが『旧唐書』倭国伝・日本伝に関わる事項や先行研究の要約をテーマとした報告を担当することで、研究発表や論文執筆の基本的な作法を身につけることを目指す。 倭国伝の読解を通して、中国、日本双方の視点から多角的に歴史をとらえる力を養いたい。
外 国 史 学	西洋史	神長 英輔	西洋近現代史に関する専門的な研究の方法を学ぶ	
	東洋史	速水 大	東洋前近代史入門『旧唐書』倭国伝・日本伝の講読	

令和7年度 史学導入演習Ⅱ シラバス

時代／分野		担当 教員	授業テーマ (シラバスより)	授業内容 (シラバスより)
考古学	考古学	阿部 常樹	考古学の研究法を学ぶ	本授業では、考古学の研究方法や発表の仕方などを学ぶことを中心に展開する。主に貝塚と関連する事象について取り上げる。貝塚は、食物残滓をはじめ、当時の日常生活を反映するゴミをもっとも豊富に含んでいる遺構である。しかし、そこに含まれている情報を引き出すためには、発掘調査方法や資料の抽出方法、その後の抽出された資料の整理・分析方法などの考古学的方法を知らなくては行えない。そこで、主に貝塚を取り上げることで、考古学の基礎的な方法論を学んでいくことを目的にする。詳細には、貝塚の分析から、1. 昔の人の特に食生活の復元方法を学ぶこと、2. 遺跡や遺構に堆積する覆土の形成過程の復元方法を学ぶことを目的の中心に据えたい。また、生徒各人に博物館の展示を基に興味をもった物質資料について現在の考古学的研究成果をふまえて調べる、もしくは遺跡についてその遺跡の歴史的・考古学的な意味・重要性をふまえて調べ、発表をしてもらう。
	考古学	仲田 大人	石器研究入門	考古学は物（モノ）をあつかってヒトの歴史（コト）を復元していく学問です。授業では石器の見方の初歩を学びます。考古資料のなかで石器はもっとも古くから人類が作ってきた道具です。考古学ではその石器をどうあつかい、歴史を復元していくのでしょうか。授業では実際に石器にふれてもらい、そこからどんな情報を読みとっていくのか、一緒に考えます。モノの観察の面白さとむずかしさ、それを基礎として語るコトについて理解を深めていきましょう。
地域文化と景観	地域文化と景観	三河 雅弘	地形図・空中写真から 歴史を読む	地形図や空中写真には、人々が土地に刻んできた歴史の痕跡を確認することができる。例えば、古代から現在にいたるまでの各時代における土地の区画、道路などの痕跡、集落跡、城郭跡などである。 本授業では、地形図や空中写真などを用いた、歴史を読み解く方法の訓練を中心に行う。受講生がそこから何らかの問題点を発見し、それに対して自ら解答を見出していくための方法を修得することを目的とする。 本授業はゼミ形式（対面）で行う。受講生に、地形図や空中写真などを用いた研究論文のなかから自らの興味・関心にもとづき論文を選んでもらい、論文内容についての報告を行ってもらう。 大学での研究においては、研究論文の検索（図書館利用含む）や読解が重要な作業となる。また、ゼミにおける報告のための準備、プレゼンテーション、討論などの方法の習得も必須である。本授業における報告準備や報告などを通じて、これらの技能を熟知してもらう。このほかにも随時、古地図や古文書などを用いた方法についても説明していく予定である。

令和7年度 史学導入演習Ⅱ シラバス

時代／分野		担当 教員	授業テーマ (シラバスより)	授業内容 (シラバスより)
地域 文化 と 景 観	地域文化と景観	畠山 聡	地域の歴史を解明するための基礎演習	本授業は、原則として大学での対面授業を実施しますが、第6回のみ Zoom によるオンデマンド型授業で実施します。 日本のムラの多くは、その起源をたどれば中世にまでさかのぼることができます。ムラの家・屋敷や寺社だけでなく、道路や田畠の姿や、用水路のあり方、さらには山野や森・林の佇まいに至るまでもが、永年にわたる住人の営為により形成されてきたものです。また、地域に伝わる年中行事や郷土芸能、伝承なども、住人の営為と深く関わっています。これらは一般的に文化財と呼ばれていますが、地域の歴史を解明するためには、これらを収集し、分析する必要があります。 本授業では、地域の歴史を解明する上で必要な文化財の調査・分析に関する基礎的な知識と手法を修得するとともに、調査・分析で得た情報を、どう整理して発信していくのか、といった方法・技術を会得できるような内容にしていきます。